

公益財団法人星総合病院

第29回イギリス(ロンドン)医療事情視察報告

平成25年11月18日(月)～11月22日(金)3泊5日の日程で、財団職員21名でイギリス(ロンドン)を訪れました。

ナイチンゲール博物館・急性期医療・がん患者施設・精神医療



チャーリングクロスホスピタル
急性期病院



ナイチンゲールミュージアム



マギーズ・センター

マギーズセンターは再発乳がん患者であったマギー・ケズウィック氏の「病人ではなく、1人の人間に戻れる、そして死の恐怖の中にあっても生きる喜びを感じられる小さな家庭的な安息の場が欲しい」という思いを受け継いだ人々によって、1996年にエジンバラに設立されました。



モーズリーホスピタル(精神科病院)

初日はロンドンを代表する病院である St.Thomas Hospital とその近くにあるナイチンゲール博物館を見学しました。また急性期医療の現状を Charing Cross Hospital の救急部長から伺いました。がん患者のためのサポート施設であるマギーズセンターを訪問しスタッフからの話を伺ってきました。翌日にはヨーロッパの精神科医療の中心地である Maudsley Hospital にてお話をいただきました。いずれも数時間の熱のこもった講義をいただき大変勉強になりました。

ロンドン市街・大英博物館・バッキンガム宮殿・ロンドン塔



ロンドン市街



大英博物館



バッキンガム宮殿前にて



さよならパーティー ワインで乾杯

研修施設はいずれも特徴があり、充実した施設運営を行っている事を感じました。今回の研修を踏まえ、当法人においては施設運営を支えるためには、運営方法の習得、地域のニーズ把握及び教育システムの充実を図ることが大切だと感じました。

ロンドン市内の観光もさせていただきました。ピカデリー周辺は冬のイルミネーションが灯っており、伝統的な建物が並ぶ街並みとマッチしてとてもきれいでした。他、大英博物館、バッキンガム宮殿、ロンドン塔などを見学させていただきました。この研修に参加させていただきイギリスの文化に触れる貴重な経験となりました。(文責 柳沼)